

東日本大震災で亡くなられた方々の鎮魂と

被災地復興を祈念して

サクノアカリ

翔 の 灯

15:00～16:15 コンサート

出演：森美和子 川辺ゆか

16:30～17:30 上映会

東日本大震災～民俗芸能の応え
三陸の民俗芸能の映像と見聞きしたお話

映像協力：東北文化財映像研究所

平成三十一年 三月九日 (土)

午後三時開演 午後二時三十分開場

会場 アートステージ567 芸術文化交流スペース

笛 森美和子



うた・ダムニエン 川辺ゆか



震災を忘れないようにと東北に想いを馳せて始めたこの会、八年の歳月が経つ3.11を前に今年も集いたいと思います。第一部の演奏会では、篠笛の音色とともに、今年は歌手の川辺ゆかさんをゲストにお迎えして、チベットに伝わるお祈りのうたなどを歌って頂きます。

参加費 1,500円

別途 一口1000円の義援金をお願いいたします。

主催 サクノアカリ企画実行委員会

東北の民俗芸能に出逢い、毎年のように訪れるようになって、二十四年経ちます。芸能が生活の中に息づいている土地や人との出逢いは、私が笛を吹いていく上での大きな力になっています。みなさまとご一緒に、東北に思いを馳せる時間となりましたら幸いです。

皆様からお預かりした義援金は、被災された地域の芸能復興に役立てて頂こうと、東北文化財映像研究所に託しております。所長の阿部さんは、震災前、そして後もずっと、東北の民俗芸能の映像を撮り続けておられます。

二〇一七年の義援金は、沿岸部の地域を冬の間に廻る「黒森神楽」の、岩泉小本での巡行（二〇一八年二月四日）の協力金として届けられました。岩泉は震災で被害を受けた後、二〇一六年にも豪雨で水害に遭った地域です。この義援金話がきっかけとなって、岩泉小本に八年ぶりに神楽を呼ぼうではないか、という明るい話が持ち上がった。そんなわけで、この日は私も京都から、この小本での神楽公演に行つて参りました。

黒森神楽は若手県宮古市の黒森神社のお神楽です。震災の時、神楽衆の方々も被災されました。皆、沿岸部にお住まいでした。にもかかわらず次の冬には、神楽巡行が再開したのです。震災後の黒森神楽巡行を追ったドキュメンタリー映画が二〇一七年に作られました。昨年この会でお客様から預かった義援金は、映画上映のための協力金として届けられることになりましたので、ご報告させていただきます。

森美和子

あの修羅場の中で形を失った故郷に民俗芸能の響きで心の復興を多くの芸能関係者は訴え実現させていった。映像記録者としては、この様な切実な思いを記録に取らないわけにはいかなかった

- ・ 鎮魂と復興祈願のイベント。町並みのない祭と芸能。年中行事絶やさない地域
- ・ ・ ・ 図らずも民俗芸能等基層文化が極限の中で果たしてきた役割が明らかになった。

(記録映像の内容解説より抜粋)



写真：阿部武司

2012年3月3日 黒森神楽身固め グリーンピア田老

2012年3月3日 黒森神楽 田老での神楽念仏

プロフィール

【森美和子】 篠笛・真笛

一九九五年より篠笛の演奏活動を始め。同じ頃より日本各地へ足を運んで民俗芸能を見聞し学ぶ。民俗芸能『京都鬼剣舞』笛方。能楽の笛を一噌幸弘に師事。奄美民謡を上村藤枝に師事。日本民謡を藤田周次郎に師事。古采、祭などで用いられてきた笛の音が現在の音楽として成り立つには？と模索し様々な公演を企画・出演。二〇〇六年に自作曲を主としたアルバム「笛のうたうた」を発表。また、大阪、京都で篠笛教室を開き指導を行っている。

【川辺ゆか】 うた・ダムニエン

神戸生まれ。様々な土地を訪れ時間をかけ宝物のように拾い集められた音楽を伸びやかに澄んだ歌声で奏でる。国境や時代、時空を超えて人々を魅了する。日本・チベット・東地中海・アイルランド等の歌をレパートリーにダムニエンで自ら伴奏も行う。日本以外にもオランダ、ベルギー、オーストリア、エクアドルなどで演奏を行い、ウズベキスタンでは国際音楽祭に出演。往来する音楽をモットーとする歌い手。



★アートステージ 567
京都市中京区夷川通烏丸西入ル
「コロナ堂」2階
地下鉄烏丸線
丸太町駅⑥番出口より徒歩2分

ご予約・お問い合わせ先

075-256-3759 (アートステージ567)
sakunoakari.3.11@gmail.com